

# 若い女性に就農、起業を

関西学院大チーム 最優秀

関西の大学生が、おいしい町の魅力や課題を探り提言する「学生まちづくり政策コンテスト」発表会（福井新聞社後援）が21日、同町総合市民センターで開かれた。昨夏、町に滞在し町民らと交流した7大学9チーム計約70人が参加。町が実現化を検討するとしている最優秀賞には、関西の若い女性向けに就農や起業を促す施策を考えた関西学院大のチーム「大熊研究室」が選ばれた。

（成沙紀）

## 情報誌やバスツアー提案

### 町、実現向け検討へ

人口減少問題に取り組む方針となる町町版総合戦略の一環で、町が初めて企画。「移住・定住・交流人口の拡大につながる町内を見て回ったり町民と意見交換したりし、まちづくり政策案を作成した。学生たちは夏季休暇中に



若い女性の就職、起業などを提案し最優秀賞に輝いた関西学院大のチーム「大熊研究室」=21日、おいしい町総合市民センター

夏町長ら5人が審査に当たり、会場からの投票も受け付けた。最優秀賞の大熊研究室は、同町の若年女性人口が全国や県の平均を下回っていることを指摘。女子学生のアンケートで約4割が「農業に興味がある」と回答したことなど

を受け、若い女性に町内で農業や起業してもらうことを提案。

情報誌を作成し、希望者を対象に大阪でフォーラムを開催。町観光PR大使のウーマンラッシュユアワーが町の良さをアピールしたり、町産の食材を使った料理を提供したりしてバスツアーに動員する企画案を、具体的な必要経費を示しながら披露した。

優秀賞に輝いた近畿大の男子学生チーム「おいしい発信部」は「漠然としている学生の将来の選択の一つとなるように」と、長期休暇を使ったワーキングホリデーを通して学生に移住への意識を高めてもらおうことを提案した。「田舎の密接な人間関係に魅力を感じるのか」との質問には、「おいしい町は優しい人が多く、時間の流れがゆったりとしていたのが良かった」と答えていた。

このほか、優秀賞には滞在型の市民農園を提案した近畿大の「片岡農藤工場」、福井新聞社特別賞には、ワイヤロープを滑車を使って滑り降りるシュップラインを敷設するなどテーマパーク化を提案した同大の「地盤環境学研究室」が選ばれた。

